

# 令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果(深谷小学校)

## 平均正答率

自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

	国語	算数	理科
深谷小	同等	上回った	上回った
埼玉県	67	64	65
全国	65.6	63.2	63.3

## 児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値(単位 %)

	質問事項	深谷小	埼玉県	全国
生活習慣	朝食を毎日食べている	95.4	94.8	94.4
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	92.2	83.0	81.5
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	95.3	91.2	90.4
	新聞を読んでいる(週に1回程度以上)	17.2	13.0	13.8
学習習慣	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	82.8	74.1	71.1
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている	93.8	81.6	78.2
	昨年度までに受けた授業で、課題解決に向け、自分で考え、自分で取り組んでいた	89.1	81.7	77.3
	学校の授業時間以外に、平日、1日当たり1時間以上勉強をしている(学習塾等で勉強している時間も含む)	68.7	61.7	59.4
教科への関心	国語の勉強は好きだ	67.2	60.7	59.2
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	93.7	93.1	91.8
	算数の勉強は好きだ	79.7	62.4	62.5
	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	96.8	94.0	93.3
	理科の勉強は好きだ	96.9	81.8	79.7
	理科の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思う	93.8	78.7	77.2
ICTの活用	昨年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	76.6	61.6	58.2
	学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	67.2	46.6	43.9
	学校で、学級の生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	23.4	23.2	22.5
	学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	18.7	22.9	21.7
	平日、1日あたり1時間以上スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っている	20.4	22.2	21.6
その他	自分には、よいところがあると思う	85.9	82.0	79.3
	将来の夢や目標をもっている	92.2	81.3	79.8
	人の役に立つ人間になりたいと思う	100.0	95.5	95.1
	今住んでいる地域の行事に参加している	71.9	50.4	52.7

## 【質問紙分析】

- ・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」の割合が県や全国の割合と比べて高いのは、児童の学びに向かう姿勢や基本的な学習習慣がしっかりと定着しているからだと考えられる。
- ・「算数の勉強は好きだ」の割合が県や全国の割合と比べて高いのは、少人数指導による「わかった」「できた」「おもしろい」を実感できる授業を教師が展開しているからだと考えられる。
- ・「学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した」の割合が県や全国の割合と比べて高いのは、教師がタブレットの操作や活用方法を児童に指導し、授業の中で積極的に活用しているからだと考えられる。
- ・「学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した」の割合が県や全国の割合と比べて低いのは、タブレットを用いての児童のプレゼンテーションスキルが十分に身に付いていないことが原因だと考えられる。児童がまとめたり発表したりする際にタブレットを効果的に利活用できるように、教師も研修を重ねてスキルを向上していく必要がある。

全国の平均正答率と比較して大きく上回った問題○と課題のある問題●とその理由

### 【国語】

#### ○国語<sup>1</sup><sub>二</sub>

出題の趣旨は「言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える」であるが、国語の授業のみならず、学級活動での話し合い活動等において、友達の意見のよさを伝えたり認めたりする経験を積んできている結果だと考えられる。

#### ○国語<sup>3</sup><sub>三</sub>

出題の趣旨は「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」であるが、漢字の小テストの取組や日々の家庭学習での継続的な取組の結果だと考えられる。

#### ●国語<sup>2</sup><sub>三</sub>

出題の趣旨は「表現の効果を考える」であるが、物語の全体像と関わらせながら表現の効果を考えることができていないと考えられる。

#### ●国語<sup>3</sup><sub>二</sub>

出題の趣旨は「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」であるが、伝え合う活動の様子（資料）から、文章の「よさ」を見付けることができていないと考えられる。

## 【算数】

### ○算数 $\boxed{1}$ (2)

出題の趣旨は「二つの数の最小公倍数を求める」であるが、「最小公倍数」という算数用語の意味を児童がよく理解し、それらの処理の仕方を計算ドリルやプリント学習等でできるようになるまで繰り返し取り組んでいる結果だと考えられる。

### ○算数 $\boxed{1}$ (3)

出題の趣旨は「示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる」であるが、朝学習「チャレンジタイム」において、記述式問題に慣れるための全国学力・学習状況調査の過去問題に継続的に取り組んでいる結果だと考えられる。

### ○算数 $\boxed{2}$ (2)

出題の趣旨は「百分率で表された割合と基準量から、比較量を求める」であるが、割合（百分率）の授業において、教師が図や数直線を用いて、数量の関係を児童に視覚的に分かりやすく指導している結果だと考えられる。

### ●算数 $\boxed{2}$ (3)

出題の趣旨は「果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ」であるが、飲み物の量が二分の一になると、同様に果汁の割合も二分の一になると誤って捉えていると考えられる。

### ●算数 $\boxed{4}$ (1)

出題の趣旨は「示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直すことができる」であるが、正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目することができていないと考えられる。

## 【理科】

### ○理科 $\boxed{2}$ (1)

出題の趣旨は「メスシリンダーという器具を理解している」であるが、授業において、教師が実験器具の名称と正しい扱い方について演示し、児童もそれらの器具を実際に使用して目的に応じた実験を行っている結果だと考えられる。

### ○理科 $\boxed{4}$ (1)

出題の趣旨は「観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる」であるが、授業において、観察や実験結果のデータから分かったことや気付いたことなどを自分の言葉でまとめたり考察したりする活動を取り入れている結果だと考えられる。

### ●理科 $\boxed{1}$ (5)

出題の趣旨は「観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる」であるが、示された二次元の表を分析して、解釈し、適切な問題を見いだすことができていないと考えられる。

### ●理科 $\boxed{4}$ (4)

出題の趣旨は「水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している」であるが、水が水蒸気になって空気中に含まれていることを日常生活と関連付けて理解することができていないと考えられる。

【国語】

- ・物語などの文章を読む際、「何が書かれているか」という内容面だけでなく、「どのように描かれているか」という表現面にも着目できるように指導していく。
- ・自分の文章のよいところを見付けられるようにするために、自分が書いた目的や意図を相手に伝えたり、感想や意見を具体的に伝え合ったりする経験を低学年から積ませしていく。

【算数】

- ・割合を用いて問題を解決する場面において、数量（飲み物の量）が変わっても割合（飲み物の濃さ）は変わらないことを日常の場面に対応させながら理解できるように指導していく。
- ・「図形」の領域においては、辺の長さや角の大きさなどに着目して、図形の意味や性質を基に作図の仕方を考えたり、作図の仕方を筋道を立てて説明したりすることができるように指導していく。

【理科】

- ・観察・実験の結果を、自分や他者の気づきを基に分析して、解釈し、問題を見いだすことができるようにするために、それぞれの気づきの視点を明確にし、差異点や共通点などから新たな問題を見いだせるように指導していく。
- ・問題解決を通して習得した知識を使って、日常生活との関わりの中で捉え直す場面を設定することで、知識をより深く理解できるように指導していく。